

日本都市学会第 65 回大会
プログラム

テーマ:成長する都市

2018 年 10 月 19 日(金)~21 日(日)

会 場:九州産業大学



主 催:日本都市学会・九州都市学会

後 援:福岡市、九州産業大学

日本都市学会第 65 回大会プログラム

1. スケジュール

【10月19日(金)】

12:30～ エクスカーション

テーマ:「天神再開発」

スケジュール:福岡市役所(集合)～天神地区(徒歩)～

「FUKUOKA growth next」(旧小学校校舎活用の創業支援施設)の見学
～(一次解散):(以下希望者)～(徒歩)～福岡城趾～鴻臚館跡～(解散)

集合場所:12時30分 福岡市役所1階ロビー(福岡市中央区天神1丁目8-1)

予定時間:2時間半程度(一次解散まで)

定員:30名。定員を超えた場合は申込順とします。

参加費:「FUKUOKA growth next」見学料(1人1,080円) ※参加費は当日徴収します。

18:00～ 理事会

会場:久留米大学福岡サテライト

【10月20日(土)】会場:九州産業大学(総合受付:1号館2階サブホール前エントランスホール)

8:30～ 受付開始

研究発表会参加費:3,000円(参加費1,000円、資料・要旨集代2,000円)、懇親会費:5,000円

9:00～ 研究発表Ⅰ (2号館)

13:00～ シンポジウム テーマ「成長する都市」(1号館)

13:00 開会挨拶 堂前 亮平(日本都市学会会長)

堤 昌文(九州都市学会会長)

(開催校) 榎 泰輔(九州産業大学学長)

13:15 基調講演 貞刈 厚仁(福岡市副市長)

13:50～16:20 パネルディスカッション

趣旨説明:堤 昌文(九州都市学会会長)

パネリスト:伊藤 幸司(九州大学大学院比較文化研究院)

馬奈木俊介(九州大学大学院工学研究院)

松本 義人(西日本鉄道)

浅見 良露(久留米大学経済学部)

コーディネーター:外井 哲志(九州大学大学院工学研究院)

16:30～ 日本都市学会賞授賞式

16:50～ 日本都市学会総会

18:00～ 懇親会(会場:九州産業大学、中央会館1階食堂)

【10月21日(日)】会場:九州産業大学(総合受付:2号館4階E棟エレベーター前ホール)

8:30～ 受付開始

9:00～ 研究発表Ⅱ

成長する都市

日本都市学会会長 堂前亮平

九州都市学会会長 堤 昌文

我が国の経済社会の情勢をみると平成18年に九州で開催された日本都市学会の全国大会当時は、一般に言われている「失われた20年」の期間中であり、経済が低迷し地方都市が疲弊した厳しい状況であった。現在は、新しい金融、経済政策の基でGDPの成長率も直近の昨年は実質で1.2%台を維持しており、概観すると世界経済と共に我が国の経済情勢も緩い景気回復基調を示しつつある。

他方、我が国の人口の動向を見ると平成20年の128百万人をピークに減少傾向に転じているが、平成27年の国勢調査によると各都市人口のベスト10の中で人口の増加率1.0%以上は、福岡市1.55%を含め3市で、他は横這いか減少傾向を呈している。特に、地方都市は、生産年齢人口の中核都市圏以上への流出や出生力の低下等で人口減少が加速し、厳しい状況に至っている。

従来都市成長は、人口と経済規模が主指標と見做なされてきたが、今日の「豊かな社会」を求める時代において都市の成長を論じる場合は、都市が魅力を持ち、どう高めるかが基本要因となる。そのことは、それ自身が競争力を生み、発展する原動力になると共にサステナブルな都市へ繋がっていくからである。都市の魅力としては、ビジネス、消費、生産、流通、情報、娯楽、学術文化、芸術文化、生活の楽しさ、ゆとり、憩い、アメニティの向上、自然環境の美しさ等の存在が成長の大きな要素として挙げられ、それをどう都市政策で活かして行くかが重要なポイントになる。

上述の点を考慮しつつ地方都市が魅力づけに独自性を示しているものを概観してみると、上流下流域や里山再生および農山漁村等との交流促進の活発化、IoTを活かした都市づくり、戦略的な観光ルネッサンス、国際化、都市環境の整備、安全安心のための防災、SNSを活用した文化づくり、地場産業のイノベーション・活性化、プレミアム・パスポート事業での少子化対策、歴史再生の町、地場産品のブランドづくり、文化芸術の振興、実践的観光としてのエコやアーバン等の各種ツーリズム等に示されているように各都市の個性を活かし、地方創生、すなわち魅力づけに向け様々な取り組みをみることが出来る。

以上のように各都市は、活性化の側面とともにそれぞれの規模の中で「豊かな社会」、「住み良い都市（まち）」を求めている。これに関連し、ビジネス環境、都市機能、治安、教育環境、自然の周辺環境等の各指標を尺度として適用し、総合的に求めた世界的な住み良さランキングが「MONOCLE」から公表されている。これをみると、ベスト1位に東京、ベルリン、ウィーン、コペンハーゲン、ミュンヘンの順となっており、ちなみに、我が国ではベスト10内の7位に福岡市と9位に京都市がみられる。

これら上位の都市から「豊かさ、住み良さ」には都市活力度の生活環境基盤、産業基盤、財政基盤、文化芸術基盤、教育基盤等の影響の強さが挙げられるが、そればかりでなく、その都市が歩んできた事象的な履歴が今日の都市形成に関わっており、それらが素地となり成長性に大きく寄与していることが推察される。

今回の開催都市である福岡市に焦点を当てると、ヒストリカルな面でアジアとの交流の軌跡は、弥生

時代の金印でみる後漢、律令国家時代の迎賓館跡の鴻臚館、平安末期の宋と平清盛の袖の湊、中世博多の豪商と南宋との交易および日本で初めての自由都市としての存在等が挙げられる。そのように本市は地理的特性を最大限に活かし、貿易を背景に商業力の強さおよび先端技術、先進文化を吸収し、海外との交流を盛んに行ってきた経緯があり、そこに国際交流の文化が根づいてきたと言える。他方、国際交流を活発に行ってきたことは多様性を受け入れる基盤を培い、発展の誘因ともなったと推察する。また、都市学的な観点では政治、経済、流通等の拠点都市として、その機能が蓄積されてきた。例えば、秀吉は博多の町割りを行い、それが今日のコミュニティ形成に活かされ、それを基盤にする博多祇園山笠は「祭り文化」の象徴である観光への貢献をみせており、ユネスコ無形文化遺産の一つとなっている。近現代では1919年に定期旅客航空便開設、1936年に日本初の国際空港の開港等で再びゲートウェイへの道を歩み始める。近年は1975年に高速交通ネットワークの山陽新幹線博多開業、1989年に市制100年を記念してアジア太平洋博覧会が開催され、それを契機にウォーターフロント開発ではシーサイドももち地区の整備、そこでの福岡市博物館等の文化施設の立地、中央部は博多湾のベイサイドプレイス博多、東側については2009年に香椎浜にアイランドシティが建設されていく。さらに、2011年に福岡市の玄関口の博多駅にJR博多シティ、九州新幹線等が整備され、これら交通基盤整備により国内外との交流が促進され都市成長の牽引力になっていったとみることができる。

上述から言えることは交通基盤、文化的基盤、住み良い空間、産業流通、アメニティ等が成長する都市の要因であり、都市規模に関係なく都市の魅力づくりこそが如何に重要かが読みとれる。

以上の特徴を考慮しつつ今大会の統一テーマ「成長する都市」について、全国から多くの研究者の参加を得て、創見に富んだ発表と活発な議論を通して、地方都市でも都市規模に関わらず色々な側面から論ずることができることを期待するものである。

2. 研究発表

発表者へのお願い

①発表時間と方法

発表時間は質疑応答や交代時間を含め「20分」です。

1 鈴 10分、2 鈴 15分、進行は司会者の指示に従ってください。

②発表時の使用機器について

各会場にはプロジェクターとノートパソコン(Windows10)を用意しています。

パワーポイントの操作はご自身でお願いします。

③発表の準備と打ち合わせ

発表用のパワーポイントのファイルはセッション開始 10分前までに、各会場のパソコンにコピーしておくよう、お願いいたします。

なお、ファイルは必ず PowerPoint2016 以前の形式で保存し、USB メモリにてご持参ください。インターネット環境はございません。

※会場の端子に HDMI 未対応の場所がありますので、可能な限り USB メモリにてデータをご持参ください。

④当日の配布資料

必要に応じてご自身でご準備ください(約35部)。なお、会場でのコピーはできません。

プログラム

日本都市学会第65回大会テーマ：シンポジウム「成長する都市」

一般研究発表

10月20日(土)

第1会場：成長する都市／大会テーマ（7名）9：00～11：20 2号館2階2E405教室

9：00 司会：戸所隆

1101 大場茂明（大阪市立大学）

EU成長都市圏における開発戦略の展開－ハンブルクを事例として－

1102 池田千恵子（大阪市立大学大学院）

リノベーションによるインナーシティ問題の解消－新潟市上古町地区を事例として－

1103 川田力（岡山大学）

ザルツブルク市における持続可能な都市開発

1104 千葉昭彦（東北学院大学）

地方中枢都市・仙台の中心性の変化

10：20 司会：小長谷一之

1105 久保隆行（立命館アジア太平洋大学・福岡アジア都市研究所）

国家戦略特区指定後の福岡市の成長と今後の課題－海外類似都市との比較検証－

1106 田坂逸朗（広島修道大学）

まちをつくるワールドカフェ－福岡市のケーススタディに

1107 中村由美（公益財団法人福岡アジア都市研究所）

福岡市の都市の成長を支える女性人材

第2会場：行政・住宅（8名）9：00～11：40 2号館2階2E406教室

9：00 司会：熊田俊郎

1201 増田金重（リサーチプランナーズ）

ノーマライゼーションにおける障害者教育の研究－特別支援教室の場合－

1202 金子憲（首都大学東京）

日本の中古住宅市場に関する分析

1203 檜楨貢（佐世保市政策推進センター）

自治体シンクタンクの可能性と限界－5年の現場経験を通して－

1204 山中雄次（静岡県立大学大学院）、金川幸司（静岡県立大学大学院）

自治体の指定管理者制度の運用とその要因についての研究

10：20 司会：井澤知且

1205 山下恒夫（大阪市立大学大学院）

サービス付き高齢者向け住宅の供給構造：市場誘導策について

1206 大塚俊幸（中部大学）久保倫子（筑波大学）

名古屋大都市圏郊外における住宅供給と新規居住世帯の居住地選好

ー岐阜県可児市周辺を事例としてー

1207 大島祥子（一級建築士事務所スーク創生事務所）

既存マンション流通促進に向けた課題と展望ー管理評価事業に着目してー

1208 川端博之（大阪市立大学大学院）

戸建て住宅地区の空き家の現状と住環境に関する研究

ー千里ニュータウン吹田市域を対象としてー

第3会場：都市形成・都市開発(8名)9:00~11:20 2号館2階 2E407 教室

9:00 司会：石川雄一

1301 藤媛媛（愛知大学）

中国都市における行政機関の移転と都市開発

1302 安藤克美(山梨県庁)、外川伸一(山梨学院大学)

我が国の人口移動構造と『人口のダム』としての

定住自立圏構想・連携中枢都市圏構想

1303 外川伸一(山梨学院大学)、安藤克美(山梨県庁)

人口減少社会における広域連携に関する考察

ー都道府県と市町村との「垂直連携」を中心にー

1304 塚田修一（東京都市大学）

戦後の都市形成と旧軍用地ー横須賀市追浜地区を事例としてー

10:20 司会：山崎健

1305 佐藤将（横浜市立大学大学院）

大都市圏近郊における完結出生力の空間構造ー川崎市を事例にー

1306 林上（中部大学）

都市港湾における埠頭の建設と利用の歴史的推移に関する考察

ー名古屋港を事例としてー

1307 村田和繁（大阪市立大学大学院）

京都の未来に引き継ぐ文化遺産認定とまちづくり

京都観光の新たな射程拡大の可能性

1308 平井太郎（弘前大学）

今、地域づくりワークショップは如何にあるべきか 合意形成と知識生産の接続

10月21日(日)

第1会場：災害・歴史(10名)9:00~12:20 2号館2階 2E405 教室

9:00 司会：酒井高正

2101 山口晃拓（東海大学）、梶田佳考（東海大学）

地方自治体における太陽光発電施設の景観規制について

2102 加井佑佳（福島工業高等専門学校専攻科）、松本行真（東北大学）、

Ngheim Phu Binh (福島工業高等専門学校)

原発事故被災地の復興に向けたボランティア・ネットワークの取組と課題
— 双葉郡未来会議を事例に —

2103 山田修司 (東北大学)
環境の価値としての被災地復興

10:00 司会：増田聡

2104 麦倉哲 (岩手大学)
災害検証の含意 — 何を排除し何を含めるかの論議

2105 松浦孝英 (中部大学)、佐藤至弘 (株式会社テラ・ラボ)、福井弘道 (中部大学)
大規模災害に備えた都市における無人航空機の空撮可視領域と映像共有について

2106 松嶋慶祐 (公益財団法人九州経済調査協会)、三井栄 (岐阜大学)
東日本大震災による被災3県における産業構造の変化と課題

2107 堀田実 (有限会社堀田総合設計)
まちの復興における「被災建築物応急危険度判定」の活用
～被災建築物応急危険度判定の結果と罹災証明調査件数などとの関係性について～

11:20 司会：林上

2108 胡雨吟 (九州大学大学院工学府)、外井哲志 (九州大学大学院工学研究院)、
大枝良直 (九州大学大学院工学研究院)
熊本地震における中小輸送事業者による救援物資の輸送実態及び輸送経路の把握

2109 篠倉大樹 (久留米大学比較文化研究所)
近世久留米藩による集散地形成の背景に関する考察—筑後川流域の水害に着目して—

2110 高木恵 (久留米大学比較文化研究所)
律令期の西国における国分寺塔の可視領域

第2会場：文化・まちづくり (9名) 9:00～12:20 2号館2階 2E406 教室

9:00 司会：吉武哲信

2201 中嶋紀世生 (東北大学大学院、宮城大学地域連携センター)
プラットフォーム型のコミュニティ形成による地域づくりの可能性
— 宮城県大崎市岩出山地域における取組事例からの考察 —

2203 清水敏志 (東海大学)、梶田佳孝 (東海大学)
水辺の楽校による地域づくりの実態

2204 太田栄里 (上越市創造行政研究所)、内海巖 (上越市創造行政研究所)
越境地域づくりに資する地域資源情報の可能性 — 信越県境地域を対象として —

10:20 司会：松村茂

2205 牛場智（静岡大学）
インバウンド事業におけるまちづくり組織のマーケティング戦略
—I Love しずおか協議会を事例として—

2206 金尾至（兵庫県立大学）
神戸市長田区の文化芸術の集積の形成・発展プロセス

2207 中原逸郎（京都楓錦会）
開かれた花街-京都北野上七軒の芸の発信を中心に—

11：20 司会：大塚俊幸

2208 藤本浩由（福山大学）、藤本倫史（福山大学）
福山市スポーツイベントのスポンサー企業への意識調査に関する考察

2209 奥野聡子（大阪市立大学大学院）
大阪市城東区蒲生4丁目における歴史的住宅の再生利用による地域活性化

2210 若杉優貴（久留米大学比較文化研究所）
核店舗が撤退した中心商業地の変容と存続条件—地方拠点都市・M市を事例として—

第3会場：社会・交通（10名）9：00～12：20 2号館2階2E407教室

9：00 司会：寺町賢一

2301 熊田俊郎（駿河台大学）
中国の同郷会館の史的展開

2302 金築正文（エム・アール・アイ リサーチアソシエーツ株式会社）、
浅田純作（松江工業高等専門学校）、飯野公央（島根大学）、佐藤広樹（松江市役所）
松江市におけるコミュニティバス維持のための検討

2303 西野淑美（東洋大学）
福井市内高校卒業者の就業と居住地移動の変遷

2304 松橋達矢（日本大学）
東京15-20km圏のブルーカラーベルト地帯における交通網再編に伴う
集住地域形成プロセスの多系性—埼玉高速鉄道沿線地域を事例として—

10：20 司会：川田力

2305 青木 勝一（文教大学）
政策のPDCAサイクルへの住民参加に関する研究：
兵庫県地域ビジョン委員会を事例として

2306 由井義通（広島大学）、宮澤仁（お茶の水女子大学）、若林芳樹（首都大学東京）、
Thang Leng Leng（シンガポール国立大学）
地域包括ケアシステムを導入した住宅団地の再生

2307 阿部智恵子（石川県立看護大学）
平成の時代における子ども、社会、親の変容

11:20 司会：西野淑美

2308 車相龍（長崎県立大学）

地方都市における包摂的なイノベーションの仕組み

—佐世保スタイルプロジェクトの事例—

2309 吉武哲信（九州工業大学大学院工学研究院）、瀬内月菜（九州工業大学大学院工学府）、
寺町賢一（九州工業大学大学院工学研究院）

日向市駅前広場を活用した市民参加イベントの広がりに関する研究

—イベント団体間・構成員間のネットワークに着目して—

2310 藤川征樹（九州工業大学大学院）、寺町賢一（九州工業大学）、吉武哲信（九州工業大学）

ラウンドアバウトにおける歩行者横断可能確率の推定

—福岡県内のラウンドアバウトを例として—

第4会場：観光・産業（7名）9：00～11：20 2号館2階2E402教室

9:00 司会：山下博樹

2401 三井栄（岐阜大学）、松林康博（岐阜大学）

乗鞍スカイラインの魅力と観光振興策に関する考察

—自転車来訪者を対象としたガチャガチャを用いた社会実験—

2402 中鉢令兒（北海商科大学）

観光資源の真正性と芸能の役割 インドネシアの影絵芝居を視点として

2403 田嶋（久留米大学）

内モンゴル自治区フルンボイル草原における移動式モンゴルゲル観光の展開

10:00 司会：根田克彦

2404 佐藤直由（東北文化学園大学）、猪股歳之（東北大学）

地方都市における杜氏組合の現状と課題

—産業・雇用環境の変化と各地の取り組みを事例に—

2405 今永典秀（岐阜大学）、三井栄（岐阜大学）、松林康博（岐阜大学）、

後藤誠一（岐阜大学）

産官学連携による観光デザインに関する考察

—ONSEN・ガストロノミーウォーキング in 奥飛騨・平湯温泉を事例に—

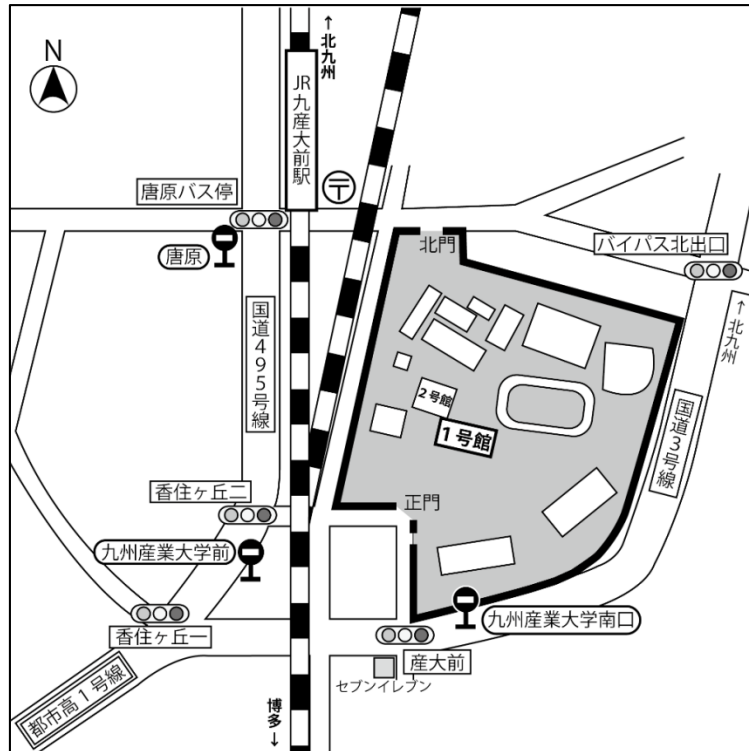
2406 石原肇（大阪産業大学）

コンビニエンスストアと地域包括連携協定を結ぶ基礎的自治体の分布の特徴

2407 杉本直子（京都府立大学）

経営指標からみる都市商業の変遷—業種構成の転換とその立地—

3. 会場までのアクセス



大会会場の最寄駅は JR 九州鹿児島本線「九産大前駅」になります。最寄駅までのアクセスは、以下の経路を参考にしてください。

※「九産大前駅」は特急・快速電車は停車いたしません、各駅停車をご利用ください。

電車

- ・ 博多駅—（鹿児島本線上り各駅停車、約 15 分）—九産大前駅下車、徒歩 10 分

西鉄バス（都市高速経由）

- ・ 天神日銀前バス停（19A のりば）—（急行、約 15 分）—九州産業大学南口下車、徒歩 5 分
- ・ 天神中央郵便局前バス停（18A のりば）—（21A、26A、約 15 分）—九州産業大学前下車、徒歩 5 分

航空機

- ・ 福岡空港—（福岡市営地下鉄空港線）—博多駅—（鹿児島本線上り）—九産大前駅

タクシー

- ・ 福岡空港から 都市高速経由で約 20 分
- ・ 天神、博多駅から 都市高速経由で約 15 分

自家用車

- ・ 福岡市都市高速 1 号線「香椎東」出入口経由、信号「産大前」を北上

* 詳しくは、九州産業大学のホームページをご参照ください

4. エクスカーション集合場所(10月19日(金) 12:30~15:00)



集合時間: 12時30分

集合場所: 福岡市役所 1階ロビー(福岡市中央区天神1丁目 8-1)

参加費: 「FUKUOKA growth next」見学科(1人 1,080円) ※参加費は当日徴収します。

5. 理事会(10月19日(金) 18:00~) ※上記の地図の①出入口よりお入り下さい。

会場: 久留米大学福岡サテライト

住所: 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1-4-2 エルガーラオフィス 6階

(TEL)092-737-3111

6. 宿泊案内

宿泊施設についてはお早めに各自で予約をお願いします。(なお、会場周辺には宿泊施設がありません。博多駅地区、天神地区の宿泊施設が便利です。)

7. 大会に関する問い合わせ先

〒839-8502 福岡県久留米市御井町 1635 久留米大学経済学部 畠中研究室気付

九州都市学会事務局

TEL: (代表)0942-43-4411(畠中研究室) メール: kyushu.toshigaku@gmail.com

※ 問い合わせは出来るだけメールでお願いいたします。